



400号(昭和43年8月1日号)



300号(昭和39年5月1日号)



200号(昭和35年3月15日号)



100号(昭和32年2月11日号)



創刊号(昭和28年7月15日号)

# 「おびら」の今を伝え続けて59年 「広報おびら」は1000号を迎えました

昭和28年7月15日に創刊号が発行されてから59年、「広報おびら」は今号で1000号を迎えました。1000号を記念して、「広報おびら」の中から、時代や歴史とともに目まぐるしく移り変わる小平町の歩みを振り返ります。皆さんの記憶には、いくつかの出来事が残っていますか？

## 1～100号(昭和28年～昭和32年)

創刊時はまだ小平村で、現在の「広報」とは違い「弘報」と題され、月に2回の発行でした。

衛生環境が整っていないためか、赤痢等の感染症の注意記事が多く、牛・馬・羊の戸籍業務のお知らせや、昭和29年には村民待望の「トラクター」が村に初めて導入(当時は農協で管理し利用料を払って使用する制度)される等、当時の時代背景が色濃く残る記事が見られます。

昭和31年9月28日には、小平村と鬼鹿村の合併にともなう「町村合併特集号」が発刊され、多くのお祝いの言葉や、新たに誕生した村の計画等が掲載されています。

また、36号(昭和30年1月1日号)には、広報おびら初の写真が掲載されました。



小平村と鬼鹿村の合併特集号



広報初の写真は当時の新庁舎でした

## 101～300号(昭和32年～昭和39年)

この頃から写真が徐々に増え、4コマ漫画も掲載される等、誌面が華やかになります。

それまでの尺貫法による単位(1里・1反・1斗等)から、現在当たり前のように使われているメートル法による単位への移行を呼びかける記事があり、現代の生活に少しずつ近づくと一方で、家族・地域総出で手作業による稲刈りが始まった記事等、今では見ることができない生活風景がまだまだ多く、「古き良き時代」を強く印象に残します。

また、220号(昭和36年1月15日号)では、小平町と札幌市を3時間2分で結ぶ準急列車が運行を開始したことが伝えられました。



当時連載されていた4コマ漫画「北のさん一家」



この当時の広報はB4紙1枚に両面印刷でした(186号・昭和34年8月15日号)